

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	向上心を引き出す授業の創造
目標（評価規準）	自分の考えをもち、いきいきと表現する児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	基礎基本の定着と理解力・表現力・思考力の育成は依然として課題である。学校研究・指導の工夫・改善に取り組むことで授業力の向上を図り、「分かる・できる」授業を実践するとともに、全体を見渡した学習支援体制を充実させることで児童自ら学ぶ力の育成を目指したい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・全体的にプラス評価が多い。 ・いきいきと学び合う子に近づいていくために、子ども像や重点は大切だと思う。 ・児童の実態を鑑みると、今後も基本方針の「確かな学力」については向上を目指して取り組んでいきたい。 ・学びのプランを集約し、来年度も使いたい。 ・書くことに関する苦手意識を減らしたり、より高みを目指したりするための手立てが十分に行えていなかった。朝学習（来年度は言葉の単元等）で継続的な取組が必要だと思った。 ・統合後、学習で支援を必要とする児童が増えると考えられる。児童数が増えても教員数は変わらないので、そのような体制で支援することができるか来年度の様子で考えていきたい。 ・家庭に対し、どのような家庭学習ができるのかを、まだまだ伝える必要がある。
各アンケート等の結果	・児童の多くは、「工夫して分かりやすく教えてくれる」「分からないところをていねいに教えてくれる」「自分の考えや意見を大切にしてくれる」「先生の言葉は分かりやすくていねい」等、全体的にプラス評価である。 ・保護者の多くは、学校が「児童一人ひとりに対し、個に応じた適切な学習支援を心がけている」「情報機器や図書室等を有効に活用しながら児童の学びを深めている」ことについて理解を示している。 ・保護者は、家庭での学習や読書習慣の定着に課題があることを認識している。
自己評価結果 （見解と改善方策）	自己評価の結果は、概ね良好と言える。 「自ら学ぶ子」という研究主題を掲げ、①「友達の意見を受け入れ意思表示ができる子」、②「自分なりの目標を設定して取り組める子」という2つの目指す子ども像を立て、その実現を目指し学校研究を推進してきた。昨年度導入した「学びのプラン」という手法も2年目となり、全教職員がこれまで以上に、子どもの視座に立った授業づくりを意識して授業実践を重ねることができた。 教育活動のさらなる充実を図るため、次のことに取り組む。 ○教員の指導力向上、研究・研修の充実 ○「学びのプラン」のさらなる研究・活用 ○指導の工夫改善の継続的な取組 ○児童の意欲を高める手立てを考えた授業づくりの推進 ○家庭との連携による学習習慣・読書習慣づくり ○支援を必要とする児童への組織的な対応（教員配置の工夫）
学校関係者評価結果	学校関係者評価の結果は、概ね良好である。 ・家庭学習の内容について、宿題の出し方を含め中学校と連携できるとよい。 ・中学校でも毎日朝読書の時間を設定しているので、連携した取り組みにした い。 ・読解力の育成を図るためにも、読書習慣は必要である。
最終改善方策	今後もさらに「確かな学力」の定着を目指し、教育活動の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。 ○授業実践を柱とした学校研究を推進することで、指導力の向上を図る。 ○指導法改善による指導の工夫とともに、個に応じた学習支援体制を整備する。 ○家庭と連携し、家庭学習、読書習慣の充実に努める。

本年度の重点	2	人権感覚豊かな学級・学校の創造
目標（評価規準）	認め合い、高め合う児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	集団生活において他者とかかわることが苦手な児童も見られる。日常的な様々な場面において、自他を理解し思いやりの心をもって他者に接することのできる「豊かな心」の育成を目指したい。また、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的な支援体制の充実を図りたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・個別学習が充実した。 ・道徳の学習では、自分や仲間と本音で対話できる授業づくりを行っていきたい。 ・個性の尊重や決めつけについては通年意識して指導できた。 ・社会生活にはモラルやマナーも必要であることを今後も伝えていきたい。
各アンケート等の結果	・児童の多くは、「学校はたのしい」「友達と仲良くしている」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる。困ったり悩んだりしているときには相談にのってくれる」「学校にあるものは。安全で使いやすい」と感じ、学校が安心でたのしい場所となっている。 ・保護者の多くは、学校が「児童一人ひとりが大切にされるよう、人権教育・道徳教育を進めている」「思いやる力や自己肯定感を高めようとしている」ことに理解を示している。
自己評価結果 （見解と改善方策）	自己評価の結果は、概ね良好と言える。 人権感覚や道徳心向上の指導・支援への努力に対して一定の評価はあるが、今後も更に適切な指導が必要である。 多様性・公平性・包括性の視点で学級づくり・学校づくりのり・デザインに取り組む。 人間関係の醸成・規範意識の向上を図り、豊かな心を育てるため、次のことに取り組む。 ○児童理解の充実、日常的な指導・支援 ○児童一人ひとりに寄り添う視点に配慮した学級づくり・学校づくりの推進 ○異学年活動、体験的活動の充実
学校関係者評価結果	学校関係者評価の結果は、概ね良好である。 ・人権教育に重点を置き取り組んだことで、児童だけでなく教職員の人権意識の向上にもつながったと思われる。 ・引き続き、人権教育を推進するとともに、児童の活動を増やし「豊かな心」の醸成を望む。
最終改善方策	今後もさらに「豊かな心」の育成をめざし、学校生活の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。 ○児童指導において、学校・家庭との共通理解のもと、組織的な支援体制を中心にした対応に努める。 ○配慮が必要な児童を含めたすべての児童が安心して過ごせるような学級づくり・授業づくりに努める。 ○児童自らが人権意識、規範意識、道徳心を育む機会の充実を図る。

本年度の重点	3	家庭・地域との連携と健康・安全教育の推進
目標（評価規準）	心身ともに健康な児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	心身ともに健康な児童の育成には、安心して過ごせる学校環境と豊かな教育活動の展開が望まれる。様々な方法で学校の状況を情報提供し、家庭・地域とともに子どもを育て、学校を作っていく連携の充実を目指したい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・学校だよりがたくさん出され、充実していた。 ・ゲストティーチャーに協力してもらい学習を進めることができた。 ・地域の方は温かい心の持ち主が多いので、今後も協力していただけるようにしたい。 ・学校からの情報も随時伝えていきたい。
各アンケート等の結果	・児童アンケートの結果、「宿題以外にも家庭学習をしている」と答えた児童の割合が10%程度増え、「南小家庭学習のすすめ」が徐々にではあるが浸透しつつある。 ・保護者の多くは、学校が「各種通信により、学校の教育活動や児童の様子を丁寧に伝えている」「保護者からの相談や連絡に、丁寧に対応している」と評価している。 ・保護者は、「宿題以外の家庭学習」や「読書習慣の定着」について課題認識がある。
自己評価結果 （見解と改善方策）	自己評価の結果は、概ね良好と言える。 P T A活動・読み聞かせボランティア・図書ボランティア・見守り隊などの家庭・地域と連携した活動については、以前の状態に戻すことができた。家庭・地域と連携し一定の活動を推進することができた。また、積極的な情報提供と丁寧な対応は、評価される結果となった。 児童・保護者が認識している課題への対応や開かれた学校づくりへの取組を継続発展させていくため、次のことに取り組む。 ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努める。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。 ○安全な環境を保つための施設・設備の改善及び関係機関との調整。
学校関係者評価結果	学校関係者評価の結果は、概ね良好である。 ・感染症の影響で希薄になりがちであった学校と保護者・地域とのコミュニケーションを活性化し、地域学習やゲストティーチャーなど、学校が積極的に活用する姿勢は評価できる。引き続き継続してほしい。
最終改善方策	今後もさらに「家庭・地域との連携」や「安全・安心な学校」を継続発展させていくため、次の3点を中心に取り組む。 ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努めるとともに、安心・安全な教育環境づくりの推進を図る。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。